

2013年7月作成

# JCCLS 認証標準物質 常用参照標準物質：JSCC常用酵素

## Reference Standard-JSCC Enzyme

(JCCLS Certified Reference Standard for Enzymes of JSCC method)

[旧：日本・常用酵素標準物質 JCCLS certified enzyme reference material]

## 取扱説明書

JCCLS CRM-001c

日本臨床化学会（JSCC）は1989年および1994年にヒト血清中のAST、ALT、CK、ALP、LD、 $\gamma$ -GT活性測定の勧告法を提示した。本品はこれらJSCC勧告法をもとに提示されたJSCC常用基準法の値を日常検査法に伝達するための標準物質であり、日本臨床化学会学術連絡委員会の規格に則り作製されたものである。なお、AMYについては、IFCC-SOP法37℃に基づいている。使用に際しては必ずこの取扱説明書の記載に従い使用すること。

### 【使用方法】

凍結乾燥品は、以下の手順に従って溶解する。

1. バイアルを冷凍庫より取り出し、室温に戻す。約10分間、室温で放置後、バイアルの周りの水分を拭く。
2. バイアルを垂直に立て、軽くたたき凍結乾燥物を底に落とす。
3. バイアルのキャップをはずした後、凍結乾燥物が舞わないようにゴム栓を静かに開ける。
4. 容量の正確さの試験<sup>(注)</sup>を実施したホールピペットを用いて、正確に3.0 ± 0.015 mLの蒸留水または精製水（電気伝導度0.5  $\mu$ S/cm以下、水温15～25℃）を、容器の内壁につたわらせ、ゆっくりと加える。＜水温には、十分注意すること＞
5. そのまま、20分間放置後、静かに20～30回、転倒混和して完全に溶解させる。  
溶解後は、直ちに密栓して冷暗所（2～8℃）に保存し、汚染、希釈、蒸発濃縮、変性等には、注意すること。
6. 溶解後は、24時間以内に使用すること。

注：3 mLの全量ピペット（出用）の容量試験

- 1) 感量0.1 mg以下の天びん、水温が15～25℃の蒸留水または精製水（電気伝導度0.5  $\mu$ S/cm以下）を用いて重量法で容量の正確さを試験する。
- 2) 試験は少なくとも5回行い、ひょう量値は小数点以下第3位まで求め、その平均値を算出する。
- 3) 求めた平均値（g）と3.000 gとの差が± 0.015 g以内の場合はその全量ピペットを採用する。

### 【使用上の注意】

1. この添付文書をよく読んでから使用すること。
2. 本品は、溶解後、再凍結して使用しないこと。
3. 本品は、HBs抗原、HIV抗体（HIV-1及びHIV-2）、HTLV-1抗体及びHCV抗体の陰性が確認されている。他のヒト感染ウイルス等については、感染性がない事を保証する試験方法が確立されていないため、一般的注意事項として感染の危険性がある事を前提とし、日常の分析試料と同様に慎重に取り扱うこと。
4. 本品が、目や口に入った場合には、水で十分に洗い流し、医師等に相談し指示を受けること。
5. 使用後の容器は、廃棄物に関する規定に従って医療廃棄物または産業廃棄物に区別して処理すること。